

みんなの窓

「贈りたい言葉」～世界のことわざや格言から～

言葉とは、実に不思議な力をもっています。ある一言が人の一生を変えるということもよくあるものです。今回は世界のことわざや格言から素敵な言葉を選んでみました。あなたは大切な人に贈りたい言葉ってありますか？

「行く言葉が美しければ来る言葉も美しい。」

日本にも「売り言葉に買い言葉」という言葉がありますが、韓国では自分の発した言葉について吟味し、責任を持てるようにこの言葉を格言としているようです。相手から返ってきた言葉に「ムカツ」いたり「キレ」たりして、悲惨な事件に発展することが多発していますが、まずは自分が発する「行く言葉」に注意してみることも必要ですね。

「日照りになると泉の良さがわかる。不幸になると友達の良さがわかる。」

これはモンゴルの昔からの言い伝えです。泉も友達も、何でも無い時にはありがたさをそれほど感じないものですが、逆境に至って初めてその良さやありがたさを痛感するものです。砂漠の多いモンゴルでの泉を例えにして、友達とは何かをよく言い当てている言葉ですね。普段から感謝の心を忘れないように心がけたいものです。

「ひとりの年寄りがなくなるのは、図書館が一つなくなるのと同じだ。」

これはギニアに昔から伝わる言葉ですが、最近の日本で発生している高齢者に対する心ない事件を考えると、なんと素晴らしい言葉だと感じませんか。日本にも「亀の甲より歳の功」というように、高齢者を大切に、いろいろなことを学ぼうとする

姿勢があったはず。今一度、噛みしめたい言葉です。

「情けは人の為ならず。」

これは、ご存じの通り日本のことわざですが、「なまじりに情けをかけることはその人のためにならない」とか、「優しい気持ちを持つことが自分の人間的な成長につながる」という意味にとられていることも多いようです。本来は、「人に情けをかけておけば、いつかは巡り巡って自分に良いことが回ってくる」という意味ですが、どの意味にとっても一理あるように思えるのは不思議ですね。

「太陽は夜明けを待ってのぼるのではない。太陽がのぼるから夜が ажけるのだ。」

これは、ユネスコ(国連教育科学文化機関)の憲章にある一文です。ものごとには全て何らかの原因があって結果が生じます。ですから、私たちも日々ぶつかる矛盾や差別などの問題を前に、ただたじろいでいては何も解決しません。まずは行動を起こすことで、何か解決の糸口が見つかることをこの言葉は教えてくれているように思いませんか？

(参考: 佐々木勝男編「子どもに贈りたい120の言葉」)

問い合わせ 人権推進課 ☎ 65-0693 ☎ 63-4582

鳥獣害対策ニュース No.27

今回は狩猟期間開始と甲賀猟区の廃止等についてお知らせします

■ 狩猟期間が始まります

県では11月15日から翌年2月15日(二ホンシカに限っては3月15日)まで狩猟期間と定めています。入猟にあたっては狩猟者に対して徹底した指導を行っていますが、不慮の事故を防ぐためにも狩猟者に分かりやすい服装で山に入るなど、ご協力をお願いします。

■ 甲賀猟区が廃止されます

猟区は、鳥獣の乱獲を防ぎ生息数を確保すること等を目的として、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づき設定される有料の狩猟の場です。市内には旧甲賀町の一部の地域にのみ猟区が設定されていましたが、近年の生息数の増加や農作物被害状況等勘案し、今年度より廃止します。これにより、従前は上記の狩猟期間において、主に土・日曜日や休日に入猟されていましたが、他地域同様に平日の入猟が可能となります。

■ 秋耕はお済みですか

二ホンシカ等の野生獣による農作物被害は、人の利用しない植物が農地に残り、それを野生獣がエサと認識することにより助長することが知られています。なかでも、水稻収穫後に再生してくる株(ヒコバエ)は、その顕著な例です。コシヒカリの9月上旬収穫の場合、ヒコバエ生体重は10a当たり1t近くに達します。これをエサと考えると、二ホンシカを1か月養うこと

になります。ヒコバエの採食は11月がピークとなるため、またお済みでない場合は、秋耕を行いましょう。



▲ 稲刈り後にヒコバエが生えた水田

問い合わせ 農業振興課 鳥獣害対策係 ☎ 65-0734 ☎ 63-4592